慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

| | |
|---|---|
| Title | 次号目次 |
| Sub Title | |
| Author | |
| Publisher | 慶應義塾経済学会 |
| Publication year | 1966 |
| Jtitle | 三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.59, No.2 (1966. 2) |
| JaLC DOI | |
| Abstract | |
| Notes | |
| Genre | |
| URL | https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19660201-0112 |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

は大きく、今回かかる段階での仕事をまとめ、世に問われたことは筆者一人の喜びに限らない。本書は二編からなる。それぞれ独立の論文で、扱う時期も場所も違うが、いずれも新しい手法に立つ点で共通していた。

第一編はイギリスの経済変動を、十七世紀初頭について扱う。当時イギリス経済は毛織物に依存すること大であった。しかし毛織物生産の大きな部分が輸出に振り向けられており、今や十七世紀イギリス経済のなかで毛織物輸出が持つ意味の重大性は明白であった。国際関係の変化で毛織物輸出は大きく変動した。かくて著者は、十七世紀初頭のイギリス経済の変動を、国際関係のなかで振幅の大きな毛織物輸出に重い比重を置きながら追跡することになった。一六〇三年から一四年に輸出は好調である。著者はイギリス産毛織物に対する需要増を、当時イギリスで起った凶作による穀物輸入増に対応するものとみた。凶作のため農業労働の大きな部分が毛織物生産に向った。その結果は生産量の増大で、これが穀物供給国の毛織物需要増に振り向けられることになったのであった。しかし一六一四年にはいり輸出は沈滞の現象を呈した。原因は大陸における毛織物工業の成長による。イギリス毛織物工業は大陸の毛織物工業の競争に直面し、もはや安泰たり得ない。現に輸出の不振は二〇年代にはいり顕著になった。そして著者はかかる変動の過程を、二四年まで追う。知られる如く、著者は単一商品輸出型経済の観点から十七世紀のイギリス経済を理解しようとした。イギリス経済は毛織物輸出の帰趨によって攪乱された。そして著者によれば、イギリスが多様な工業を発展させ、そしてこれにより毛織物輸出が国民経済に対し与える影響を緩和できるため、遠く十九世紀の産業革命まで待たなければならなかった。

第二編は十九世紀フランスに関説する。著者は一八三九年から四七年までを一つの単位とみ、そこで鉄道建設の持つ意味を重視した。とくに三九年から四四年の期間内に鉄道投資は活況を呈し、鉄道建設にともなう鉄需要の増大のなかで鉄価格の低下が目立つ。四五年にはいり鉄道建設は本格化した。従来は鉄道建設で政府資金が大きな割合を占めていた。しかし今や大量の民間資本が流入した。そして建設が本格化した時、鉄道は商工業に必要な資金まで吸引してしまったほどであった。一八四六年には過剰投資の気味が強い。しかし逆に商工部門の資金は枯渇してしまった。かかるなかで凶作が起った。凶作は食糧輸入の増大を必然化した。かくて多額の正金が穀物輸入代金として望まれた。しかし鉄道建設の本格化で資本市場は圧迫を受け、容易に融通が得られない。要求は執拗をきわめた。かかるなかで資本市場は緊迫の度を深めていった。金融危機から鉄道建設事業は中絶の脅威にさらされることになった。現に若干の鉄道会社は破産した。周知の如く、鉄道建設は雇傭効果が大きく、凶作による金融難が鉄道建設を危険に追い込んだ時、不況が国中に一般化することになった。著者は一八三九年から四七年を不況期とみ、その理由づけを以上に概観するのであった。（有斐閣・昭和四十年四月刊・A5・一七二頁・五五〇円）

—渡辺國廣—

* * *



## 訂　正（本学会雑誌　第58巻　11, 12月合併号）

(54, 55頁)

54頁“第1図　aイギリス”と，55頁“第3図　アメリカ・イギリス・フランス所得分布比較”の図は，相互に入れ違っております。

なお，第1図の説明中，資料出所“Table 4, 7, 8 作図”とあるのは，“Table 3, 7より作図”と訂正します。

(56頁)

第3表の説明中，資料出所“Table 4, Table 7”とあるのは，“Table 3, 7”と訂正します。

(57頁)

第4表中，下より12行目，右より10列目の“10.7,”下より3行目，右より11列目の“13.5,”下より2行目，右より15列目の“23.4”はゴチックに訂正します。

## ◇次号目次◇


論　説

小倉藩人畜改帳の分析と徳川初期全国人口推計の試み……速水　融

消費者余剰の理論——展望……長名寛明

資料・研究ノート

日本におけるゴドウィン研究史……白井　厚

幕末—明治初期武蔵国人口趨勢に関する一考察……佐々木陽一郎

同時方程式体系による生産函数の推定……黒田昌裕

書　評

R・R・ネイルド著『景気変動下の物価と雇用』……鳥居泰彦

——英国製造業に関する研究・一九五〇年～一九六一年——

柴垣和夫著『日本金融資本分析』……植草益

新刊紹介